

会議結果報告書

1 会議名	平成 30 年度第 1 回環境指導員地区会議（茅ヶ崎南地区）
2 日時	平成 30 年 5 月 25 日（金）10：00～11：30
3 場所	高砂コミュニティセンター ホール 1
4 出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）安齋担当主査、加茂主事、井上技能労務統括主査、森川技能労務統括主査 （茅ヶ崎南地区）参加人数：11 人
5 内容	<p>本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>●家庭ごみの有料化については非常に良いと思っている。しかしながら、不法投棄が増えること、処理にどのくらいの費用が掛かるのかということ、また、燃えるごみや資源物の頻度がどうなるのか、ということが気になる。これからの話し合いで決まらと思うが、環境指導員として頭を悩ませている。高齢化の進展を踏まえると、ステーションまで持っていくのが困難な人も多くいる状況であり、戸別収集については、時代にあった形ということでやむを得ないと思う。ただし、有料化にあたり、市がどこまで経費の削減をしているのかははっきり示してほしいし、他の事業においても本当に無駄な事業はないか示していただければ、私たちは納得できる。</p> <p>→仮に導入する場合、不法投棄対策は実施していきたいと考えている。現在、不法投棄の処理には年間 5,000 万円程度の費用がかかっている。他市において、有料化導入に伴い不法投棄が増加してしまうことを心配していたが、導入後は、心配した程の増加は見受けられなかったとのことである。また、燃えるごみや資源物については、努力により燃やせるごみそのものを減らすということに加え、例えば剪定枝など燃やせるごみを資源化するなどし、有料化となる燃やせるごみの範囲を狭めるといようなことも検討している。</p> <p>●戸別収集をする場合、段階的にではなく一度に資源も含めて全部実施してほしい。</p> <p>→藤沢市の場合でも、全ての資源物を戸別収集の対象としているわけではなく、一部ステーション方式を残している。多くの品目を戸別収集すると、その分車両や人員が必要となり経費がかかってしまう。そういったことから、有料化で得られる歳入と戸別収集で必要となる歳出のバランスを見ながら、どの範囲まで戸別収集を実施できるのか見定めていきたいと考えている。</p> <p>●集積場所のことが問題となっていることから、戸別収集が望ましいと考える。</p> <p>●戸別収集は良いやり方である。この町に居住したら良いと思うような茅ヶ崎方式を決めて、できるだけ早く実現してほしい。自治会と情報共有しながら進めていけば、うまくいくと思う。</p>

●共同住宅やマンションは今の集積所に出すということでよいか。

→他市の事例をみても居室ごとには収集を実施していない状況にある。

●「知ってる？紙の分別」がとても分かりやすい。全戸配布してほしい。

→こちらはホームページへの掲載や資源循環課の窓口で配布している。試行的に作成したため、部数が限られており全戸配布は難しいが、できるだけ皆様にご覧いただけるようにしていきたいと考えている。

以上